



1 瀬戸蔵ミュージアム

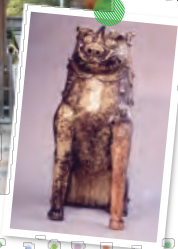
瀬戸蔵ミュージアムは、瀬戸のやきものすべてがわかる必見の施設です。藤四郎が瀬戸で窯を開いたとされる時代に焼かれ始めた「古瀬戸」の数々も年代を追って展示されています。「古瀬戸」は中世の日本で唯一釉薬が施されたもので、瀬戸のやきもの歴史の中でも代表的なものといえます。

開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 月1回程度臨時休館、年末年始
入館料 一般500円、高校・大学生・65歳以上の方300円、中学生以下・障害者手帳をお持ちの方・妊婦の方は無料※20名以上は団体割引あり。



2 深川神社・陶彦社

創建が奈良時代に遡るといわれている深川神社には、藤四郎作と伝えられている陶製狛犬が安置されています。本殿の東側に鎮座する陶彦社は文政7(1824)年に創建され、大正15(1926)年に遷宮が行われ今の姿となっています。藤四郎を祀っており、毎年4月に行われる「せと陶祖まつり」の御物奉獻行列で「陶物」を献上する儀式が行われます。



陶製狛犬(重要文化財)

藤四郎作と伝えられている灰釉の陶器製狛犬。古くは雌雄(阿吽)一対でしたが、そのうち一つが盗難にあったといわれており、現在は吽形だけとなっています。(拝観有料)

3 陶祖春慶翁宅趾碑

藤四郎の宅跡を示す碑。昭和24(1949)年に建てられました。六角陶碑の碑文に、「陶祖の宅跡を中島といい、瀬戸村深川神社東辺の田園の中に在り、杉一株を樹て、以ってしるしとなす。」と書かれていたため、杉の巨木があったこの地が宅跡とされました。



4 宝泉寺

市指定文化財である十六羅漢塑像や陶磁器の絵付職人が描いたとされる天井絵などがある曹洞宗の古刹。毎年11月には「お薬師さん(あめんぼまつり)」が盛大に行われます。寺宝として藤四郎作とされる瓶子があり、現在は瀬戸蔵ミュージアムで展示されています。



5 陶祖公園

名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅から瀬戸川沿いに東へ行った高台にあります。瀬戸の中心部を一望できるとともに、公園内には藤四郎の業績を称える陶碑や室町時代から近代までの窯跡がいくつもあります。陶祖800年祭に伴い、平成26(2014)年に再整備され、「瀬戸公園」から「陶祖公園」に名称変更されました。



六角陶碑(市指定文化財)

藤四郎の業績を称えるため、慶応3(1867)年に名工といわれた加藤清助(景登)が中心となって建設されました。大小29個のやきものが組み合わさる六角陶碑は、高さ4.1m、総重量約2トンと陶製の碑としては日本最大といわれています。



かげと 景登翁之碑

明治24(1891)年に六角陶碑建造において多大な功績を残した加藤清助(景登)を称える陶碑として建設されましたが、同年に起きた濃尾地震で倒壊してしまい、現在の姿は昭和14(1939)年に修復されたものです。



陶柵

陶祖800年祭の際に、以前設置されていた加藤紋右衛門制作の青磁と瑠璃釉の円柱に藤の花を図案化した磁器製の柵を復元したものです。



園名碑・陶の階段

園名碑及び陶の階段の蹴上部分の陶板は、瀬戸陶芸協会の会員によって制作されました。園名碑の揮毫は宝泉寺出身の總持寺貫首、江川辰三禅師によるものです。



志野焼燈籠(市指定文化財)

志野釉が施された陶製の燈籠で、「明治五年壬申三月」の銘があります。製作者は六角陶碑と同じ加藤岸太郎です。高さ285cmと陶製燈籠としては、国内最大級の大きさです。



「瀬戸公園」園名碑

六角陶碑が建設された藤四郎山が、明治43(1910)年に開催された陶祖700年祭の際に「瀬戸公園」と名付けられ、当時は公園の入口にこの園名碑が設置されていました。



狛犬を愛でる 陶祖之像

陶祖800年祭の際に瀬戸市出身の彫刻家である加藤昭男氏が制作した陶祖像です。



夕日窯跡

公園内には戦国時代の窯跡があります。その当時つくられたやきもの一部が発掘調査によってみつかっており、現在、その出土状況が展示されています。

